

驚きますよ！リネンと柿渋の抗菌・防臭性と抗酸化性について

たまあじさいの会 古澤省吾

リネン（亜麻の繊維）は西洋に、柿渋は日本・韓国・中国の東アジアに、どちらも大昔からあるもので、人々の日々の衣食住と労働・生産での生活を、健康面、快適性、便利さと美しさにおいて数千年間も支えてきたものです。二つに共通するのは同じリグニンに代表されるポリフェノールで、抗菌・防臭性と抗酸化性の高い機能性をもたらします。リネンを柿渋で染めると、もともとポリフェノールに富んでいるリネン繊維が、柿渋のポリフェノールでコーティングされ、美しい色合いに染まるだけでなく、使い込んで古くなったリネンでも、リフレッシュされ、また新たな魅力と機能性を備えて生まれ変わります。

リネンにも柿渋にも、抗菌・防臭性と抗酸化性があると言われてきましたが、リネン布にも、それを柿渋で染めた製品にも、やはり高い機能性があることが実証（カケン：財団法人日本化学繊維検査協会での試験にて）されています。これによりリネンと柿渋のポリフェノールの抗菌・防臭と抗酸化の機能性が、細菌の増殖や活性酸素による過酸化脂質（POV）の発生を抑制し、肌の細胞を守るということも、科学的に説明できます。またリネンの繊維のセルロースも、それを覆うポリフェノールも、紫外線を吸収する分子構造となっています。リネンと柿渋を身にまとうことで、人間の最大の臓器とも言われる皮膚、肌を酸化や細菌、紫外線の害から守り、我々の健康と快適な生活をもたらしてくれます。

植物が生み出すポリフェノールは、全部で8000種類くらい存在すると言われています。植物はポリフェノールを作り出すことで、有害な活性酸素や細菌や、紫外線から自らを守ります。ポリフェノールには、抗酸化性や抗菌性以外にもいろんな機能があり、ブルーベリーのポリフェノールであるアントシアニンは視力回復に効果があるとされ、ウコンのクルクミンは肝臓に良いとされています。リネンと柿渋に共通するポリフェノールのリグニンは、さらにたんぱく質も金属分子も吸着する性質があります。だから放射性セシウムも吸着（リネンの繊維にはペクチンも含まれているので、その吸着力も無視できないと思います）するのです。繊維に付着したそのような汚れや臭いも、リグニンが絡め取り、それを洗濯で少しずつ剥離するように流れ落ちるので、リネンはまた綺麗になります。昔から、リネンの繊維は洗えば洗うほど白く、美しくなるといわれる通りです。リグニンは我々が健康で快適な生活を送るのに、たいへん心強い存在です。

また新型コロナ禍の中この機能を活かして、マスクの製造を始めたところもあります。面白いところでは、アイスクリームなどのバニラの風味にもリグニンは変身するのですよ。

リネンも柿の栽培にも、農薬はほとんど使用されません。リネンと柿渋は、人体にとっても、優しく健康に寄与するものです。とてもタフな繊維ゆえ長持ちしますが、役目を終えると、やがて分解されて自然に還ります。植物のポリフェノールの効果で、LOHAS（健康で持続可能な生活様式）を実現します。



|← 0.5mm →|
リネンのホワイト#491



|← 0.5mm →|
リネンの生成り#1072の柿渋染